

## マーケット概況（2024年3月）

3月の債券相場は、10年373回債が0.715%で取引を開始後、米国の経済指標の悪化を受けて買いが優勢となった。さらに5日の10年債入札を無難に通過すると、10年373回債の利回りは0.695%まで低下した。ただその後は、7日の30年債入札がやや低調な結果となったことや、13日の春闘集中回答日に企業側から満額回答が相次ぐなど日銀が3月中に金融政策の正常化を目指すとの観測が高まったことから反落した。14日の20年債入札が軟調な結果となると債券相場は下げ幅を拡大し、15日に10年373回債の利回りは0.795%まで上昇した。19日に行われた日銀金融政策決定会合ではYCC政策の撤廃に加えマイナス金利政策の解除が発表されたことから短期ゾーンの軟調推移は継続し、22日に2年458回債の利回りは0.205%とカレント債として2011年4月以来の高水準を更新した。しかし、市場はすでに政策変更は一定程度織り込み済みで、当面は緩和的な環境が継続するとの見通しから債券相場は反発した。さらに、日銀審議委員講演や28日に公表された3月金融政策決定会合の主な意見においてもタカ派色が強くなかったことが確認されると買い進まれた。ただ月末は、米国FRB高官が早期利下げに対して後ろ向きな発言を行ったことから再び軟調となり、結局10年373回債は0.725%で取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は先月から続くマイナス金利解除を織り込む動きとなり、月半ばには-0.050%台まで金利上昇した。15日の3M1219回債入札では最高落札利回りが0.0279%となり2015年以来のプラス金利となった。19日の日銀金融政策決定会合にてマイナス金利政策が撤廃されたが、22日の3M1221回債入札では業者の在庫薄であることや、期越えの担保需要で玉確保姿勢が見えたことで最高落札利回り0.00%となり、セカンダリーでは-0.060%まで金利低下した。6M金利は6M1217回債入札で最高落札利回り0.0418%と2014年以来の高水準となった。1Y金利は1220回債入札では最高落札利回り0.1231%と2011年以来の結果となったが、投資家の買いが見られセカンダリーでは0.090%まで金利低下し取引を終えた。

### <一般債市場>

3月の定例地方債は、10年債が6カ月連続の国債カーブ対比+9.0bpの条件決定となった。一方で、5年債が旺盛な需要を背景に1.0bpタイトニングの国債カーブ対比+9.0bpの条件決定となり、5年債と10年債のカーブスプレッドは横並びとなった。第4四半期に入ってから供給量が減少し需給がひっ迫したことにより、入札物の地方債・政保債も引き続き旺盛な需要がみられ、その後のセカンダリー市場も堅調に推移した。社債の発行額は、ソフトバンクグループ7年リテール債（5,500億円）の大型発行が寄与し前年同月比27%増の1兆5,736億円（42銘柄）の発行となった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#373	0.715(1日)	0.695(5日)	0.795(15日)	0.725(29日)
#372	0.675(1日)	0.665(28日)	0.750(15日)	0.685(29日)
#363	0.485(1日)	0.465(5日)	0.565(15日)	0.500(29日)
#165-#166(5Y)	0.370(1日)	0.345(28日)	0.400(11日)	0.355(29日)
#187(20Y)	1.455(1日)	1.450(1日)	1.590(15日)	1.490(29日)
#1211-#1217 TDB(6M)	0.035(7日)	0.015(7日)	0.035(7日)	0.015(7日)
#1216-#1221 TDB(3M)	-0.108(1日)	-0.110(1日)	0.005(15日)	-0.060(27日)